

令和2年度 農業科（資源動物科）

教科	農業	科目	資源動物	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書							
副教材	「畜産」（実教出版）※購入済						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

「資源動物」では2年次に学んだ飼料分野を更に学習し、畜産経営の基礎となる飼料費や飼料効率も理解することで畜産経営の改善を学習する。動物に対してのバイオテクノロジーが急速な発展している中で基礎的な生物工学の知識を習得する。その応用として人工授精から受精卵移植までの手法を理解する。畜産分野以外でもその技術が応用された事例を紹介しながら、地球上の貴重な資源としての動物を再認識させる。

2 学習の到達目標

- ・飼料の基礎的な理解を2年次に学習している生徒もいるので、その成分や飼料効率を知識として確認する。さらに、摂取した成分が家畜にどのように利用されるかを深く理解し、経営を念頭に飼料における課題を認識する。課題解決に向けて、必要な情報をまとめる。畜産現場の飼料に関する動物および作業者の安全面についても考慮できるようになる。
- ・動物バイオテクノロジーの歴史と畜産の品種改良の重要性を理解する。現代の畜産では、様々な分野で生物工学の研究が応用されていることを知識として学ぶ。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	飼料やその課題について関心を持ち、栽培している飼料作物についても理解している。また、バイオテクノロジーの基礎について理解させる。	成分データを読み取ることができ、飼料価値を算出できる。また、安全性について判断できる。また、植物バイオと動物バイオの利用方法を知ることによって生物工学の可能性を把握し考えることができる。	レポートに知識をまとめ、解決策を考察して発表できる。また、専攻で栽培ができています。	栄養素や飼料の特性、保存性や安全性についての知識を正確に記述できる。また、バイオテクノロジーの発展が人間に用いられていることを理解させる。（生殖医療分野）
評 価 方 法	学習状況の観察 ノートやプリントの記述	学習状況の観察 ノートやプリントの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやプリントの記述 発表活動 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやプリントの記述 定期考査の結果
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	家畜の栄養と栄養素	家畜と栄養の概念 飼料とその成分 栄養素とその性質	○	○ ○	○	○ ○	a:飼料について関心を示せる b:成分データを読み取れる c:レポートとして知識をまとめる d:栄養素の知識を正確に記述できる	授業観察 ノート プリント 発表活動 定期考査
	バイオテクノロジーとは	バイオテクノロジーの概念 バイオテクノロジーの発展	○ ○	○ ○	○	○ ○	a:バイオテクノロジーについて関心を示せる b:身の回りにあるバイオテクノロジーを考えられる c:レポートとして知識をまとめる d:バイオテクノロジーとは何か理解している	授業観察 ノート プリント 発表活動 定期考査
2学期	飼料の特性と給与	飼料の特性と生産物の品質 微量栄養素の特性 課題と解決策の考察 飼料価値とその評価	○	○ ○	○	○ ○	a:課題について関心をもっている b:飼料価値を算出できる c:解決策を考察し、発表できる d:特性の知識を正確に記述できる	授業観察 ノート プリント 発表活動 定期考査
	動物バイオテクノロジーについて	バイオテクノロジーの動物利用の知識と技術 (人工授精・受精卵移植)	○	○	○	○	a:動物バイオテクノロジーに関心を持っている b:畜産農家が動物バイオテクノロジーを利用する理由を考えられる c:レポートとして知識をまとめる d:人工授精と受精卵移植について理解している	授業観察 ノート プリント 発表活動 定期考査
3学期	作物の特徴と管理	飼料作物の栽培と保存 飼料の安全性	○	○ ○	○	○ ○	a:栽培している作物を認識している b:安全性について判断できる c:専攻で飼料作物を栽培できている d:安全性の知識を正確に記述できる	授業観察 ノート プリント 発表活動 定期考査

